

株式会社シニアコミュニケーション
 東京都港区六本木 4-1-4 黒崎ビル7階
 代表取締役社長 山下 健太郎
 調査担当 高瀬 誠

「敬老の日」にあわせた 60 歳以上アンケート

～「敬老の日」が自分達向けだと思う年配者はわずか 8%～

シニアマーケットの専門機関である株式会社シニアコミュニケーションは、2011 年 8 月に 60 歳以上の男女に対して、「年齢や健康に関するアンケート」と題した調査を実施しました。

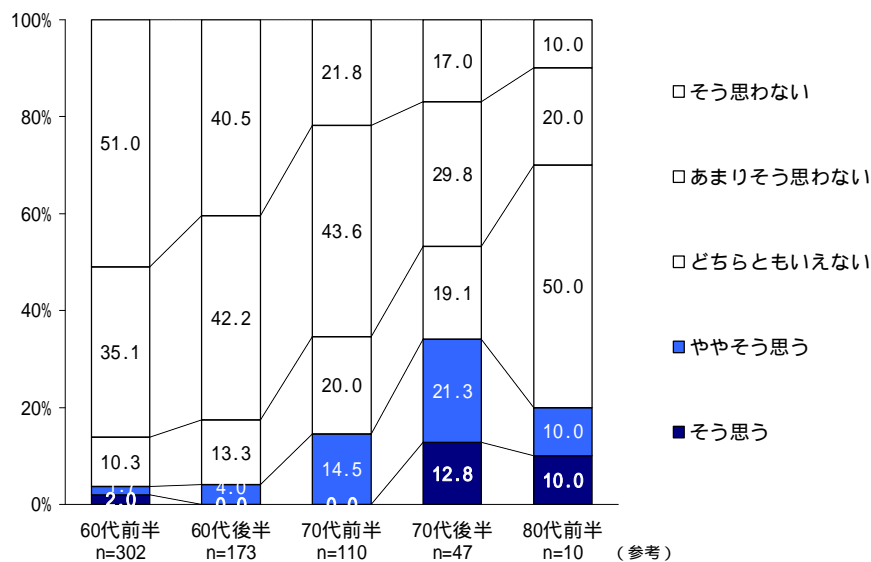
- 調査手法：WEB アンケート調査
- 対象者：60 歳以上の男女個人（シニアコミュニケーション MASTER 会員）
- 有効回答数 642 人（男性 424 人 女性 218 人）

「敬老の日」が自分達向けだと思う 65 歳以上は 1 割に満たない

敬老の日は「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」ことを趣旨とした国民の休日ですが、60 歳以上のシニアに、「敬老の日が自分達向けの日だと思うか」と聴取したところ、「そう思う/ややそう思う」と答えた割合は 1 割に満たない結果となりました。

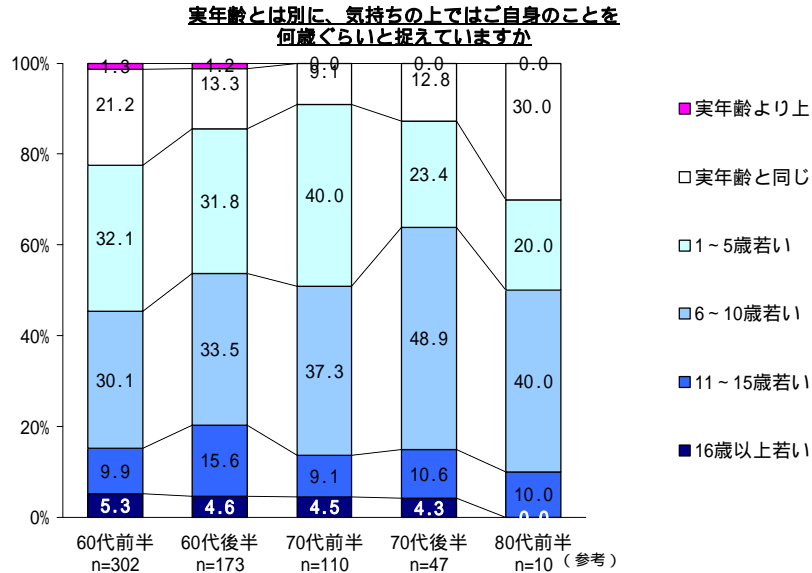
- 年代に比例して「そう思う/ややそう思う」割合は高まりますが、70 代後半でようやく 3 割を超える水準となります。

「敬老の日」が自分達向けの日だと思いますか



その要因の1つは「認知年齢」の若さ

続いて、自己の認知年齢 = 気持ちの上で自身が認識している年齢を聴取すると、実年齢より「1~5歳 / 6~10歳若い」という回答が大部分を占める結果となりました。



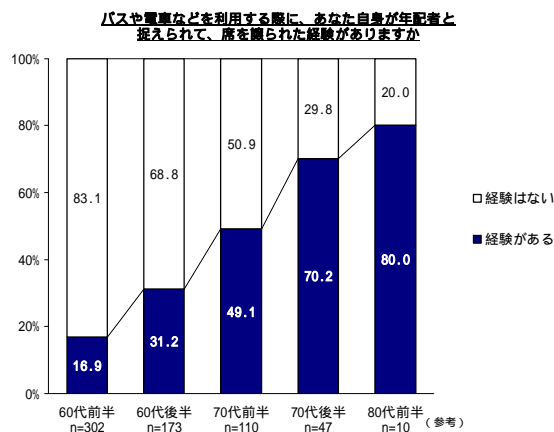
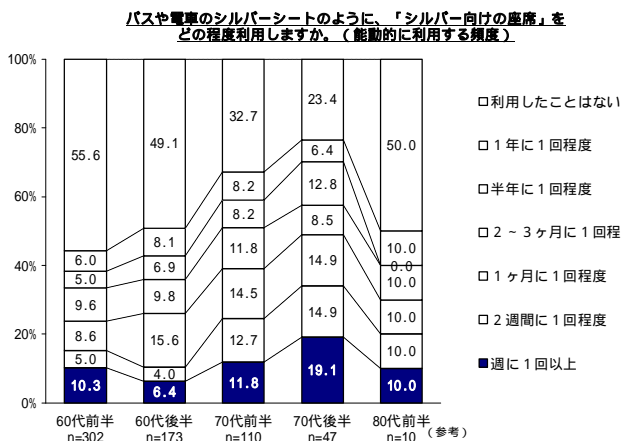
シニアコミュニケーションがこれまでに実施したインタビューやアンケートでも、認知年齢は実年齢より5~10歳若い結果になり、実年齢と意識面でのギャップがあることから、

- 「高齢者と言うと自分達よりも上の世代のことだと思う」
- 「周りから高齢者として扱われることに抵抗がある」

という意見やコメントがよく見受けられます。

シルバーシートの利用と席を譲られるギャップ

また代表的なシルバー向けサービスとして、「(バスや電車の)シルバー向けの座席」に利用状況を尋ねると、年齢に比例してその利用頻度は高まるものの、70代であっても「週に1回以上の利用」は2割を下回る結果となりました。



その一方、年配者と捉えられて席を譲られた経験は、年齢を重ねるにつれて譲られた経験は大きく伸張し、初めて席を譲られた年齢は主に65歳~70歳ごろと挙げられました。

余談になりますが、定年退職後の男性が同世代の友人と久しぶりに顔を合わせる時に、話題の1つになるのが、この座席を譲られた経験です。

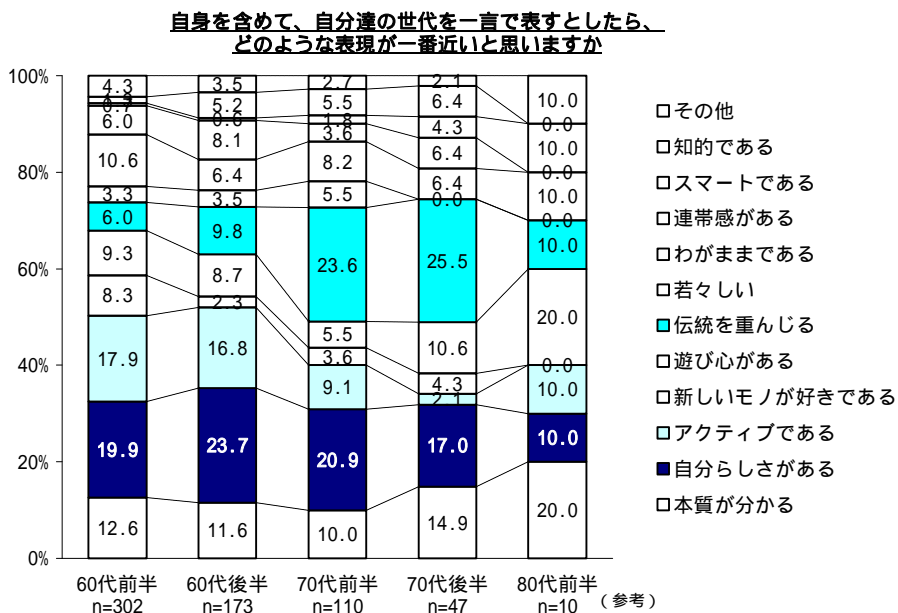
個人によって見た目年齢に差があることに加え、定年後とあって会社勤めをしていた頃のような一様にスーツ姿ではないことから、同年代であっても座席を譲られた経験にバラツキが大きいようです。ただしいずれの男性も初めて席を譲られた時はショックなようで

- 「あまりに思いがけないことだったので、返答に困って、次の駅で降りてしまった。」
- 「次から電車に乗る時は、(若く見られるように)身なりや背すじを気にするようになった。」

とのコメントも寄せられます。

自分達世代の特徴は、「伝統」から「個性」へ

では、60代以上の方々は自分達世代をどのような特徴だと認識しているのでしょうか。「自分達の世代を一言で表すとしたら、どのような表現が一番近いと思いますか」の問いには、60代では「自分らしさ」が、70代では「伝統を重んじる」が上位に挙がりました。



この認識の違いは、「家や社会を中心とした伝統を重視する世代」から、「個人の嗜好や価値観を重視する世代」へ変化しつつある兆候ではないでしょうか。

このような調査結果や事象を踏まえると、60代以上に向けた商品やサービスを企画するにあたっては、消費者をひと括りに「高齢者」と見るのではなく、「嗜好や価値観が異なる生活者達」として捉えた目線に切り替えることが必須であると言えます。

当社では、シニアと企業双方のコミュニケーションの橋渡しとなる役割を担うことを目的に、

- シニアから企業への知見や評価の伝達
- 企業からシニアへのマーケティング活動の伝達 を支える業務を展開しております。

特に今回のような調査についてはその質と量を高め、随時、発表していくことを予定しております。

調査結果 資料

- 今回実施した「年齢や健康に関するアンケート」の調査資料を公開しております。

数表 http://www.senior-com.co.jp/pdf/110914_cross.pdf

自由回答集 http://www.senior-com.co.jp/pdf/110914_fa.pdf

リリースに関するお問い合わせ

株式会社シニアコミュニケーション 広報担当

TEL 03-3560-1851 FAX 03-3560-1816 E-mail press@senior-com.co.jp